平成 19 年度　秋期　テクニカルエンジニア（ネットワーク）試験　採点講評

午後 II 試験

問 1

問 1 では，フォレンジックシステムの要件に基づく，サーバの設置方式，採取データの証拠性の確保及び障害に配慮したネットワーク接続構成について出題した。全体として，正答率は高かった。

設問 3(3)は，TST によって保証される存在証明と，完全性又は原本性について出題したが，“その時刻に存在していたこと”や“その時刻以降，変更や改ざんが行われていないこと”といったタイムスタンプの時刻と，それを付与したデータの関係を明確に記述できた解答が少なかった。証拠性という観点でのタイムスタンプのもつ意味をよく理解してほしい。

設問 5(3)は，冗長な経路をもつネットワーク上で，VoIP-GW が転送用ポートを決定するための動作について出題したが，STP などの動的な経路制御が行われていないネットワークの構成ということに気付いていない解答が多かった。信頼性を高める冗長な経路をもつネットワークの動作に関して，理解を深めてほしい。

問 2

問 2 では，ネットワークシステムの機密性，完全性，可用性の確保を目的とした三つの技術的対策を例にとり，設計から運用までを出題した。全体として，正答率は高く期待どおりだった。

設問 4(5)は，TCP/IP 通信を妨害する基本的な方法について出題したが，的確に記述した解答は非常に少なかった。ネットワークシステムで，重要な課題になっているセキュリティ対策を考える上でも，TCP/IP の基本的な通信手順の理解が必要なので，もっと学んでほしい。

設問 5 では，導入システムの作業手順に従った導入項目の内容について出題した。(2)は，システム導入時の二つの作業内容を解答させる問題で，問題文に記述された技術的なポイントを正しくつかめば解答を導き出せるが，作業 2 の正答率は低かった。問題文に記述された内容のポイントをつかみ，これを順序立てて整理する能力を身に付けてほしい。(4)は，ルータ経由で，エンド・ツー・エンドの通信を行うときの手順について出題したが，プロキシ ARP の働きがほとんど理解できていなかった。障害発生時の原因究明や，適切な対応策の立案のためには，TCP/IP 通信の理解が重要である。